

## 国際化学肥料ニュース (2015年7月)

### 肥料業界の2015年7月動態

- \* ブラジル化学肥料協会 (ANDA) 会長は、今年のブラジル化学肥料輸入量が20%減るだろうと予想した。主な原因は通貨レアル安による輸入肥料価格の高騰及び農業向け貸し出し金利の上昇である。ブラジル化学肥料協会の統計データによれば、今年1~5月の国内産肥料が5.4%増に対して、化学肥料販売量が21.4%も減少した。

2014年ブラジルの化学肥料輸入量が3220万トン、12月末在庫が566万トンに達した。ブラジルは世界第2位の化学肥料輸入国(第1位はインド)、その輸入量が減ると、化学肥料の国際市場に与える影響が大きく、尿素や塩化加里の国際市場価格が下落するだろうと推測される。

- \* ロシア税関のデータによれば、今年1~4月のMAP輸出量が9%増の59.6万トン、輸出先の内訳は、アメリカ23.1万トン、エストニア13.8万トン(ほとんど再輸出)、ベラルーシ4.2万トン、ブラジル4.1万トン。

一方、1~4月のDAP輸出量が133%増の55.6万トン、輸出先の内訳は、エストニア10.8万トン(ほとんど再輸出)、フランス9.98万トン、アメリカ9.1万トン。

- \* 世界加里肥料の需要不振で、東南アジアの塩化加里価格が低下した。現在、マレーシアとインドネシアが行っている今年下半期の輸入塩化加里商談では、大手加里メーカーの提示価格はFOB292~300ドル/トン、CFR310~320ドル/トンである。

スリランカ農業省が9月輸入予定の50kg袋包装の塩化加里価格CFR334ドル/トン、4月の応札価格より12ドル/トンも下落した。ベトナム輸入塩化加里のCFR価格がすでに320ドル/トンに値下げられた。

- \* オーストラリアはりん安の輸出量が急増した。今年1~5月のDAP輸出量が7.95万トン、特に5月に5.2万トン(タイに3万トン、ベトナムに2.2万トン)を輸出した。また、5月に初めてMAP2.9万トンをブラジルに輸出した。

- \* 7月7日、カナダCanpotexが即日から東南アジア向けの塩化加里を値上げすると発表した。普通塩化加里はCFR335ドル/トン、大粒塩化加里がCFR350ドル/トンに設定する。6月末現在、普通塩化加里はCFR310~320ドル/トン、大粒塩化加里がCFR325~335ドル/トンであった。

- \* 中国政府が今年の化学肥料輸出関税の改定及び需要期と非需要期の区分撤廃が良い効果を生み出した。特にりん安（MAP と DAP）の輸出量が急増した。中国税関の統計によれば、1～5月のMAP輸出量が前年同期より176%増の117.45万トン、特に5月だけで610%増の56.98万トンも輸出した。一方、1～5月DAPは119%増の212.28万トンを輸出した。5月のDAP輸出量が303%増の70.67万トンに達した。
- \* ロシアのUralkali社は2016年から粒状塩化加里の生産能力を増強すると発表した。市場の要望に応じて、2019年までに塩化加里に占める粒状品の生産量を現在の30%から50%に引き上げる。
- \* 7月から東ヨーロッパ諸国向けの塩化加里が値上げされた。ベラルーシのBPCはバルト海諸国に対して10ユーロ/トンの値上げを実現した。ロシアのUralkaliもすでに東ヨーロッパ諸国に8～10ユーロ/トンの値上げを纏め、現在西ヨーロッパ諸国に対して同様の値上げ幅を交渉している。
- \* ベラルーシのBPC社のCTO（最高技術責任者）Igor Podlesny氏は、BPCの生産能力等の情報を開示した。  
BPCは6つの加里鉱山を有し、4つの選鉱精製工場で塩化加里生産能力1200万トン/年を有し、2014年の塩化加里生産量1050万トン、世界シェア16%、輸出量947.5万トン、輸出先は100ヶ国以上、世界市場の20%を占める。BPCの加里鉱山はすべてソリゴルスク地区（Soligorsk）にあり、判明した埋蔵量は147億トン、採掘可能な年限が150年以上。  
また、塩化加里のほかに化成肥料の生産にも力を入れている。2020年に72万トン/年の化成肥料生産能力を有する計画である。
- \* 中国政府統計局の統計データによれば、2015年1～6月の化学肥料生産量は窒素肥料3.7%増の2432.1万トン（N100%換算）、りん酸肥料12.8%増の956.3万トン（P2O5 100%換算）、加里肥料11.1%増の281.4万トン（K2O 100%換算）である。
- \* ロシアのUralChem社は今年上半期の生産量を公表した。アンモニア生産量が11%増の43.8万トン、尿素生産量が59.9万トン、硝安生産量が140万トン、昨年同期と同様である。化成肥料の生産量が大きく増え、33%増の35.6万トンに達した。
- \* 7月30日、インドMMTC社が行った尿素入札の結果は公表された。応札件数29件、応札数量285万トン、最低応札価格はIndagro社のCFR284.44ドル/トンである。

6月に行ったインド STS 社の尿素入札に最低応札価格 CFR305 ドル/トンに比べ、価格が大きく下がった。

これは、尿素の需要が非常に不振で、この1ヶ月だけで、国際市場の価格が15~20ドル/トンも値下げされた。7月中旬に黒海のある貿易商は5000トン尿素をFOB260ドル/トンで購入したのを皮切りにウクライナのOPZ社はFOB270ドル/トンで売り出した。イランも8月納品の大量尿素をFOB270ドル/トンで提示した。8~10月には尿素の価格が低迷を続けるだろうと予測される。

### 大手各社の営業業績

- \* ロシアの Uralkali 社は今年第1四半期の業績を公表した。塩化加里生産量が8%減の270万トン、販売量が17%減の253万トン、塩化加里の売上高が6%減の6.12億ドル、会社の総売上高が17%減の7.2億ドル。なお、塩化加里平均販売価格が19%上昇し256ドル/トンであった。
  
- \* チリ SQM 社の第1四半期業績が公表された。売上高3.875億ドル(20%減)、粗利1.307億ドル(15.6%減)、純利益0.996億ドル(10%減)である。減収減益の要因は塩化加里と硫酸加里の輸出が響き、販売量が48%減少した。ただし、生産コストの削減と販売価格の上昇で、利益の減少幅が抑えられた。  
一方、GTIS (Global Trade Information Services) の最新データによれば、チリ SQM 社1~5月の加里肥料輸出量43.3万トン(20%減)、その輸出先の内訳はブラジル13.5万トン、アメリカ7.4万トン、メキシコ4.9万トン、スペイン3.2万トン、南アフリカ2.2万トン、ベルギー1.6万トン。
  
- \* 7月30日、カナダの Potash Corp 社は第2四半期の業績を公表した。加里肥料販売量が昨年同期と同じの250万トン、販売単価が10ドル/トン上がって、273ドル/トンとなった。そのため、加里肥料部門の営業粗利が5.6%増の4.17億ドルである。  
しかし、窒素肥料の販売量が昨年同期と同様の160万トンであったが、販売価格が15%下落した。りん酸系の肥料販売量が20%減、販売価格が9%増であった。窒素肥料とりん酸系肥料の販売不振で、総売上高が8.5%減の17.3億ドル、税引き前の純利益が12%減の4.17億ドルであった。
  
- \* 7月28日、ヨルダンの APC 社が今年上半期の業績を発表した。塩化加里生産量が9%増の110.6万トン、販売量が8%減、税引き後利益が41%増の8600万ドルであった。利益増の原因は販売価格の上昇である。今年上半期の平均販売価格309ドル/トン(昨年は297ドル/トン)であった。

APC社は塩化加里の生産能力増強に力を入れている。2.8億ドルを投資して、鹹水の蒸発と精製装置の改良と増設とを行っている。2018年完成後、塩化加里生産能力が新たに24.5万トン増加する。また、2016年に20万トンの大粒塩化加里生産ラインが完成する予定である。ヨルダン唯一の港Aqaba港に塩化加里輸出専用のパースを建設中で、2016年完成する予定。

#### 肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- \* 6月に完成したサウジアラビアのSafco社のNo.5尿素生産ラインの試運転が順調で、7月から正式に生産を始めた。当該尿素生産ラインの生産能力が110万トン/年で、全量輸出に供する。
  
- \* インドGSFC社は12.6億～15.8億ドルを投資して、グジャラート州Dahegam市に総合石油化学工場を建設すると発表した。当該工場はアンモニア、尿素、カプロラクタム、メタクリル酸メチル(MMC)の4つ製造設備を設置する。アンモニアと尿素の生産能力はそれぞれ72.6万トン/年と100万トン/年と予定されている。
  
- \* 7月27日、ドイツのBASF社とノルウェーのYara社は合弁でアメリカテキサス州Freeport市にアンモニア合成工場を建設することに合意した。当該工場はアンモニア生産能力75万トン/年、総投資額6億ドル、アメリカのKBR社は工場建設を請負い、2017年完成する予定である。Yara社は68%の権益を持ち、生産したアンモニアを北米地域の工業メーカーと化学肥料メーカーに供給する。BASF社は32%の権益を有し、そのアンモニアを自社のカプロラクタム(ナイロンの原料)工場に原料として使用する。  
両社はすでに北米最大の天然ガス供給会社Praxair社との間に天然ガスの長期供給契約を締結した。完成後、BASF社は工場の運営を行う。
  
- \* カナダCominco社は、アフリカコンゴ共和国にあるHindaりん鉱山の開発可能性研究を完成したと発表した。当該りん鉱山はコンゴKouilou州にあり、最寄りのPointe Noire港の距離が37kmしかない。りん鉱石埋蔵量470万トン、平均P2O5含有量11.4%。
  
- \* アメリカルイジアナ州とリトアニアInvestimus Foris社が共同でアンモニア55万トン/年の工場を建設することに合意した。当該工場はルイジアナ州Grant Oarish市に建設し、総投資額2.65億ドル、2016年第2四半期着工、2018年第3四半期完成する予定である。

#### その他

- \* 6月25日、世界最大の加里肥料メーカー、カナダの Potash Corp 社は同業のドイツの K+S 社を買収する意向があると発表したが、7月2日、K+S 社は Potash Corp 社の買収提案を拒絶した。その後、Potash Corp 社は K+S 社に対して経営責任者の直接会談を申し込んだ。同時に Potash Corp 社は仮に買収に成功した場合に、K+S 社の生産拠点の閉鎖や分割、従業員のリストラを行わないと保証すると述べた。ただし、41 ユーロ/株の買収価格が適切であるとも発言した。

塩化加里の生産コストを比較すれば、K+S 社が世界大手の中で一番高く、この3年間の平均では 265 ドル/トンである。一方、Potash Corp 社が 160 ドル/トンしかなかった。また、生産能力では、Potash Corp 社が 1700 万トン/年、K+S 社が 600 万トン/年である。買収が成功すれば、両社合計で 2300 万トンの生産能力を有し、塩化加里の世界生産能力の 28%を占めるようになる。

昨年 Potash Corp 社は加里肥料のシェア拡大に走り出した。2014年12月、中国化学グループ、ヨルダン APC、イスラエル ICL、チリ SQM に計 45 億ドルを出資した。2015年1月、ブラジル Heringer 社の 9.8%株式を取得し、ブラジルの加里肥料市場への攻勢を強めた。

- \* 7月13日、ドイツ K+S 社 CEO Norbert Steiner 氏はカナダ Potash Corp 社の買収を拒絶する。Norbert Steiner 氏は、買収案が K+S 社全体の利益とドイツの国家利益を考慮せず、会社従業員の仕事と生活を守る及びドイツ国民に対する責任を果たすために買収を拒絶すること以外に選択肢がないと述べた。

- \* 7月1日、中国政府は 2016 年化学肥料輸出関税の調整を開始した。7~8 月は各肥料メーカーと肥料協会にアンケート調査と面談、9~10 月は関税調整案を制定し、政府関係部門の意見集約を経て、11 月に決定、12 月中~下旬正式発表という運びである。

一部の肥料品目（主に加里肥料）を除き、2007 年から続いている輸出関税を完全に撤廃する陳情は肥料メーカーと関連協会から上がってきた。

- \* ノルウェーの Yara 社はイギリスの子会社 GrowHow UK Group の 50%株式をアメリカの大手肥料メーカー CF Industries 社に譲渡したことを発表した。譲渡金額 6.48 億ドル。これにより Yara 社と CF 社は GrowHow 社の株式をそれぞれ 50%ずつ持つようになった。

GrowHow 社はイギリスの Inverness と Buckingham に肥料工場を有し、生産能力はアンモニア 80 万トン/年、硝安 110 万トン/年、化成肥料 50 万トン/年、主にイギリス国内に販売している。2014 年の純利益が 1.56 億ドル。

- \* ロシアの UralChem 社は、ロシア外国貿易銀行（VTB）に 15 億ドルの貸付を申請し、それを使って Onexim 社が持っている Uralkari 社の 20%株式を買収する計画である。今回の株式買付計画はロシアの大富豪 Dmitry Mazepin 氏の後押しを受けて、成功すれば、UralChem 社は Uralkari 社の 39.99%株式を持ち、将来の吸収合併を視界に入れることができる。

しかし、Onexim 社とオーナーの Mikhail Prokhorov 氏は、UralChem 社の買収行動に不満を表している。その理由は UralChem 社の負債が Uralkari 社の市場価値を毀損する恐れがある。昨年 11 月に発生した SK-2 加里鉱山の地下水逆流事故で、Uralkari 社の今年上半期の塩化加里生産量が 5%減の 570 万トン、第 1 四半期の販売量が 17%減の 250 万トンしかなかった。UralChem 社と合併すれば、窒素、りん酸、加里の資源と生産工場をすべて揃える世界最強の肥料メーカーに変身し、激しい市場競争に勝つことができると目論んでいる。

- \* 7 月 6 日、中国の投資ファンド北京泰瑞創新はカナダの Western Potash Corp 社の株式を 1 株 0.3213 カナダドルで、総額 8000 万カナダドルで 2.48 億株を買収し、Western Potash Corp 社の発行済み株式数 51%を持つようになった。

Western Potash Corp 社はカナダの加里肥料ベンチャーで、Saskatchewan 州南部の Milestone に加里鉱山の探鉱と採掘を行っている。すでに試採を終え、有望な鉱脈を発見されたようであるが、資金不足で正式の開発スケジュールが確定されていない。

2013 年の Western Potash Corp 社の業績報告書によれば、430 万カナダドルの赤字で、2014 年の赤字額が更に拡大している。なお、2013 年 6 月、中国の国営中海石油社はカナダの子会社 CBC 社を通じて、1 株 0.71 カナダドルで、総額 3198 万カナダドルで 4504 万株を購入し、持株数 19.9%となった。

- \* 6 月 1 日、インドネシア政府の不正競争防止委員会は、国内関連業界の要請により、中国産硝酸に対してアンチダンピング調査を開始すると発表した。

- \* 7 月 11 日、中国政府発展改革委員会の責任者は中国の化学肥料の需給関係がすでに供給過剰になり、化学肥料が国内農業向けの特種商品から一般商品に変わった。中国政府は、化学肥料の生産に与えている優遇措置を撤廃し、輸出制限を解除し、化学肥料に対する増徴税の徴収を再開することを検討していると発言した。2016 年から中国産化学肥料の輸出政策が大きく変動することを示唆した。

- \* 中国の内モンゴルは 2020 年に世界最大の尿素生産地域となる。2015 年現在、中国の尿素生産能力が 8300 万トン／年、内モンゴルが約 1000 万トンであるが、豊富の石炭資源と政府の優遇措置を背景に多くの尿素生産プロジェクトを建設中または計画中で、

2020年には生産能力が2100万トン／年に達し、中国の尿素生産能力の20%以上を占めるようになる。すべての生産ラインが最新の技術を導入し、生産能力がアンモニア30万トン、尿素52万トン／年未満の生産装置が認めない方針である。

- \* 中国政府関係者の話しによれば、化学肥料に徴収を暫定的に免除している増値税はすべての化学肥料に対して徴収再開を決めた模様。8月か9月に正式発表し、9月か10月から施行するようである。